

東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称) 東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野主催 12月がん看護勉強会 事例報告者：山家 良太 所属：東北大学大学院がん看護学分野 テーマ：転移性脳腫瘍患者、家族への支援について	
担当者氏名：佐藤 富美子 教授	所属：東北大学大学院がん看護学分野
内線：7926	Email: fsato@med.tohoku.ac.jp
1. 実施年月日： 平成 30年 12月 17日	
2. 開催場所： 東北大学医学部保健学科D棟 217号室 がん看護学分野カンファレンス室	
3. 関連分野： 脳腫瘍、がん看護、家族看護、倫理	
4. 対象者： がん看護に興味関心のある医療関係者・大学教員・東北大学大学院医学系研究科保健学専攻学生・東北大学医学部保健学科学生	
5. 参加人数：(お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など) 大学教員 3名、大学院生 3名、医療関係者 2名(在宅診療所がん看護専門看護師 1名、他病院外来看護師 1名)、学部学生 2名 計 10名	
6. 成果： 転移性脳腫瘍患者及び家族看護で苦慮した事例について報告があった。 事例は、60代男性、認知機能の悪化や治療拒否といった行動により問題のある患者として医師及び看護師から認識されていた様子が伺えた。報告者は患者と患者を支える家族に対するケアに更なる改善の必要性を認識していた。報告をもとに、患者及び家族の原疾患及び既往歴より身体的、心理的、社会的側面に関するディスカッションを通し、課題の明確化及び今後の改善策について参加者とディスカッションをおこなった。 成果として、適切な治療の実施・苦痛の緩和・家族支援を行うためには、看護師と医師共同のカンファレンスで患者の行動の意味を明確にするなどの方策の必要性が課題として抽出されたことである。様々な施設に所属する医療者間での現状の意見交換がおこなわれ、看護及び医療の質評価を行うことで均てん化されたがん医療及び看護の必要性が示唆された。	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

